君想う

桜咲 優莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君想う

【Ｎコード】
Ｎ４１６５Ｊ

【作者名】
桜咲　優莉

【あらすじ】
同じ生徒会役員の先輩を想う男の子の話。
その先輩には「付き合っている」と噂をされている人がいて……。

（前書き）

この話は「君愛し」と少し話が繋がっています。
先に「君愛し」を読むことをお勧めしますが、
これだけ読んでも大丈夫です。

アノ人の隣りにいる
貴方が羨ましいです

「長谷川さん！今日の放課後、生徒会室集合らしいです」
「あっ、広坂くん。わざわざありがとね～」

ラッキー、俺ついてる。
こんな広い学校で長谷川先輩と会えるなんて。

長谷川さんは俺のひとつ先輩で
生徒会の書記。

最初見た時
すっげー大人っぽくて
さすが先輩だなーって思った。

だけど話してみると意外と子供っぽくて
俺のほうが年上に感じるぐらいだった。

そんなギャップに俺は惚れてしまって
今ではかなりの重症。

でも噂では長谷川先輩は佐竹先輩と付き合っているらしい。

でもその噂を信じることができなかった俺は
この前、佐竹先輩に聞いてみた。
そうしたら、長谷川さんとはそんな関係じゃないと言われた。

だから
今の俺はかなり良い気分。

――――――放課後――――――

「広坂くん2ば～ん」

本から顔をあげ
ブイサインの長谷川さんに迎えられた。

生徒会室に入るとまだ長谷川さんしか来ていなかった。

「他のみんなは？」
「生徒会長は教室に忘れ物、
　あとのみんなは……たぶん終礼が長引いてるんだよ」

やった。
長谷川さんと2人だけだ！

荷物を机の上に置いて（長谷川さんの前確保！）
宿題に手を付けた。

「宿題、きちんとするなんて偉いね。私もしようかな～…」
長谷川さんはいつの間にか
本をかばんに片付けてノートを机に広げていた。
「私なんてさ、宿題は朝、学校来てからやってるよ～」
意外な一面を知ってちょっと嬉しい…
「長谷川さんがそんな事するなんて意外です」
笑いながら言ったら
「だってさ、家では遊びたいじゃん！！」
堂々と言う長谷川さんが可笑しかった。
そういう発想が見た目と違うんだよなぁ……。
「そ～いやさ、広坂くん。いい加減、苗字やめない？
名字にさん付けで呼ばれると違和感あるし」
「え～。でも先輩って感じじゃないし～」
「失礼な！！……じゃあ、せめて名前でさん付けで！」
名前でさん付けって…
「梨乃さん……？」
「う～ん。ま、それでいっか」
少し納得したみたいな顔をしている。

「俺が名前でさん付けだから、梨乃さんも名前で呼んでくださいよ」
「……啓一くん……？じゃあ今度から、けーいちくんて呼ぶね」
「梨乃さんに呼ばれると『啓一』じゃなくて『けーいち』って感じるのは気のせいでしょうか…」
「気のせい、気のせい」

へらりと笑う梨乃さんも可愛くて目をそらしてしまった。

「あっ、せいとかいちょー遅〜い！！」
「悪かったな」

その時、教室に忘れ物を取りに行った生徒会長が部屋に入ってきた。

そこで俺と梨乃さんの会話は終わってしまった。

「お疲れさまでした〜」

皆で挨拶をして生徒会室を出た。
そして、いつも最後に生徒会室を出る梨乃さんを待った。

「私たち、ここ出るのいつも最後だよねぇ〜」
「そうですね」

そこから玄関まで梨乃さんと話しながら歩いた。

俺と梨乃さんは帰る方向が同じだから
「一緒に帰りませんか？」と言おうとして口を開いた……が

「佐竹だ。じゃあまたね、けーいちくん！」
「あっ……はい、また明日…」

玄関には佐竹先輩がいた。

本当お似合いの2人だなぁ…。
付き合ってないなんて言葉信じられないぐらい。

「なんでここにいるの？」
「ちょうど部活終わったけどお前の靴あったから待ってた」
「ありがと～」

梨乃さんと佐竹先輩が遠くで話しているのが聞こえる。
会話を聞いていると、ますます恋人みたいだ。

なんだか自分がみじめに思えて
梨乃さんたちと、わざと違う道から帰った。

あの2人、気づいてないだけで多分両想いなんだろうな……。

梨乃さんたちと、違う道から帰りながら
『あの2人が自分の気持ちにさっさと気づきましょうに』
俺は1人願った。

2人が両想いになった、その時は
きっと笑っておめでとうと言うから
どうか幸せになってください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4165j/

君想う

2011年1月27日01時01分発行